

第8期(平成25年3月期) 決算説明資料

平成25年6月11日



阪神高速道路株式会社

当期連結決算の概要

当社グループの当期の連結業績は、営業収益 2,364億円（前年同期比▲4億円）、
営業利益 25億円（前年同期比▲2億円）、経常利益 31億円（前年同期比▲3億円）、
当期純利益 17億円（前年同期比+5億円）となりました。

事業別の業績等の概要は、次のとおりです。

高速道路事業

- ◆阪神高速道路の一日当たり平均通行台数は、約72万台（前年同期比 0.5%減）と減少傾向となりましたが、割引施策の変更等により料金収入は1,704億円（前年同期比2.2%増）
- ◆道路資産完成高は515億円（前年同期比4.6%増）
- ◆道路資産賃借料は1,277億円（前年同期比4.4%増）
- ◆この結果、
営業収益は2,227億円（前年同期比2.7%増）
営業費用は2,205億円（前年同期比3.0%増）
営業利益は21億円（前年同期比19.0%減）
となりました。

受託事業

- ◆国や地方公共団体等の委託に基づく道路の新設等の事業を受託したことにより、
営業収益は93億円（前年同期比40.2%減）
営業費用は94億円（前年同期比39.9%減）
- ◆この結果、営業損失は21百万円
（前年同期は営業利益42百万円）となりました。

その他の事業

- ◆休憩施設の運営、駐車場施設の運営、道路マネジメント事業等を展開したことにより、
営業収益は 45億円（前年同期比1.6%減）
営業費用は 41億円（前年同期比9.6%減）
- ◆この結果、営業利益は3億円
（前年同期比1,931.6%増）となりました。

高速道路事業

単位：億円〔単位未満切捨て〕

主な増減内容

区 分		25年3月期	24年3月期	増減
営業収益	料 金 収 入	1,704	1,667	+36
	道路資産完成高	515	492	+22
	そ の 他	7	8	▲ 0
		2,227	2,168	+58
営業費用	道路資産賃借料	1,277	1,223	+53
	道路資産完成原価 (注)	528	492	+35
	管理費用	399	425	▲ 25
		2,205	2,141	+63
高速道路事業 営業利益		21	26	▲ 5

● 営業収益

- ・通行台数は一日当たり約72万台（前年同期比0.5%減）
- ・料金収入は割引施策の変更等により、1,704 億円（前年同期比36億円増）
- ・道路資産完成高は、新神戸トンネルの移管等により515億円（前年同期比22億円増）

● 営業費用

- ・協定に基づく道路資産賃借料 1,277億円（前年同期比53億円増）
- ・管理費用は、阪神圏マイレージサービス廃止に伴う減等により、399億円（前年同期比25億円減）

（注）守口JCT（仮称）の道路資産完成原価が完成高を上回ることが見込まれるため、その差額13億円を仕掛道路損失引当金として計上しています。

関連事業

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分		25年3月期	24年3月期	増減
受託事業	営業収益	93	157	▲ 63
	営業費用	94	156	▲ 62
	営業利益	▲ 0	0	▲ 0
その他の事業	営業収益	45	46	▲ 0
	営業費用	41	46	▲ 4
	営業利益	3	0	+ 3
関連事業 営業利益		3	0	+ 3

主な増減内容

●受託事業

大阪府道高速大和川線に係る工事等により、営業収益は前年同期比63億円の減、営業費用は前年同期比62億円の減となり、営業利益は前年同期比64百万円の減

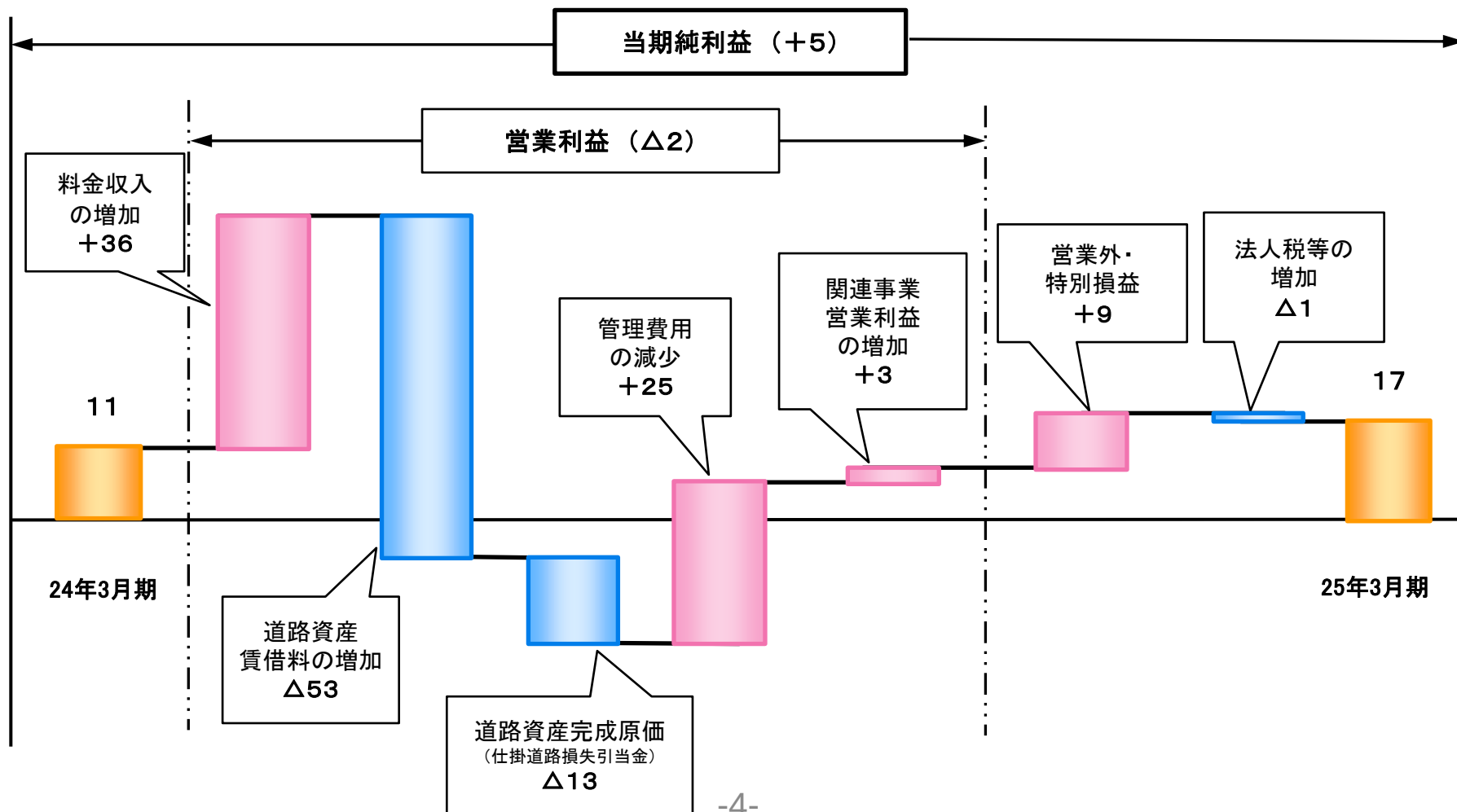
●その他の事業

営業収益は前年同期比0.7億円の減となったものの、農産物・海産物直売所の営業費用削減等により営業利益は前年同期比3億円の増

連結当期純利益増減要因

◆前年同期比 5億円増加
(24年3月期:11億円⇒25年3月期:17億円)

単位:億円[単位未満切捨て]



当期連結財務諸表の概要

単位：億円〔単位未満切捨て〕

連結損益計算書

区分	25年3月期	24年3月期	増減
営業収益	2,364	2,368	▲ 4
営業費用	2,338	2,341	▲ 2
営業利益	25	27	▲ 2
営業外収益	7	8	▲ 1
営業外費用	0	0	▲ 0
経常利益	31	35	▲ 3
特別利益	2	1	+0
特別損失	0	11	▲ 10
税引前当期純利益	32	25	+7
法人税等	15	13	+1
当期純利益	17	11	+5

連結貸借対照表

区分	25年3月期	24年3月期	増減
総資産	3,305	2,668	+637
流動資産	2,841	2,194	+647
（うち仕掛道路資産）	2,044	1,644	+399
固定資産	463	473	▲ 9
総負債	2,908	2,287	+620
流動負債	1,153	841	+312
固定負債	1,754	1,446	+308
純資産	397	380	+17
株主資本	397	380	+17
資本金	100	100	-
資本剰余金	100	100	-
利益剰余金	197	180	+17
その他の包括利益累計額	0	0	+0

平成26年3月期 連結業績の見通し

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分		26年3月期 見通し	25年3月期 実績	増減
営業 収益	高速道路事業	3,372	2,227	+1,145
	料金収入	1,735	1,704	+31
	道路資産完成高	(注)1 1,636	515	+1,120
	その他	1	7	▲ 6
	関連事業	131	139	▲ 8
	セグメント間取引消去	-	▲ 2	+2
		3,503	2,364	+1,139
営業 費用	高速道路事業	3,399	2,205	+1,193
	道路資産賃借料	1,312	1,277	+34
	道路資産完成原価	(注)1 1,666	528	+1,137
	管理費用	420	399	+20
	関連事業	126	135	▲ 9
	セグメント間取引消去	-	▲ 2	+2
		3,525	2,338	+1,187
営 業 利 益		▲ 22	25	▲ 47
	高速道路事業	(注)1 ▲ 26	21	▲ 47
	関連事業	4	3	+0
経 常 利 益		▲ 24	31	▲ 55
当 期 純 利 益		▲ 26	17	▲ 43

連結業績の見通し

当期純損失は、親会社の損失28億円に連結子会社等の利益2億円を加えた26億円となる見通しです。

なお、連結業績の見通しのうち、親会社の見通し額は国土交通大臣から認可を受けた平成25年度事業計画に基づいています。

(注)1 高速道路事業における損失は、緊急修繕の一部について、高速道路事業に係る利益剰余金の活用を前提に、機構への債務の引渡しを行わないで機構に帰属する道路資産を形成する事業を実施することによるものです。
 （道路資産完成原価と道路資産完成高の差が31億円発生）

(注)2 平成26年3月期の業績見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。

平成26年3月期 個別業績の見通し

単位: 億円〔単位未満切捨て〕

区 分		26年3月期 見通し	25年3月期 実績	増減
営業 収 益	高速道路事業	3,371	2,219	+1,151
	料金収入等	1,735	1,704	+30
	道路資産完成高	(注)1 1,636	515	+1,120
	関連事業	106	107	▲ 1
		3,477	2,327	+1,150
営業 費 用	高速道路事業	3,399	2,204	+1,195
	道路資産賃借料	1,312	1,277	+34
	道路資産完成原価	(注)1 1,666	528	+1,137
	管理費用	420	397	+22
	関連事業	104	105	▲ 1
		3,503	2,309	+1,194
営業 利 益	高速道路事業	(注)1 ▲28	15	▲ 44
	関連事業	2	2	+0
		▲26	17	▲ 43
経 常 利 益		▲28	20	▲ 49
当 期 純 利 益		▲28	10	▲ 39

個別業績の見通し

当期純損失は、28億円となる見通しです。

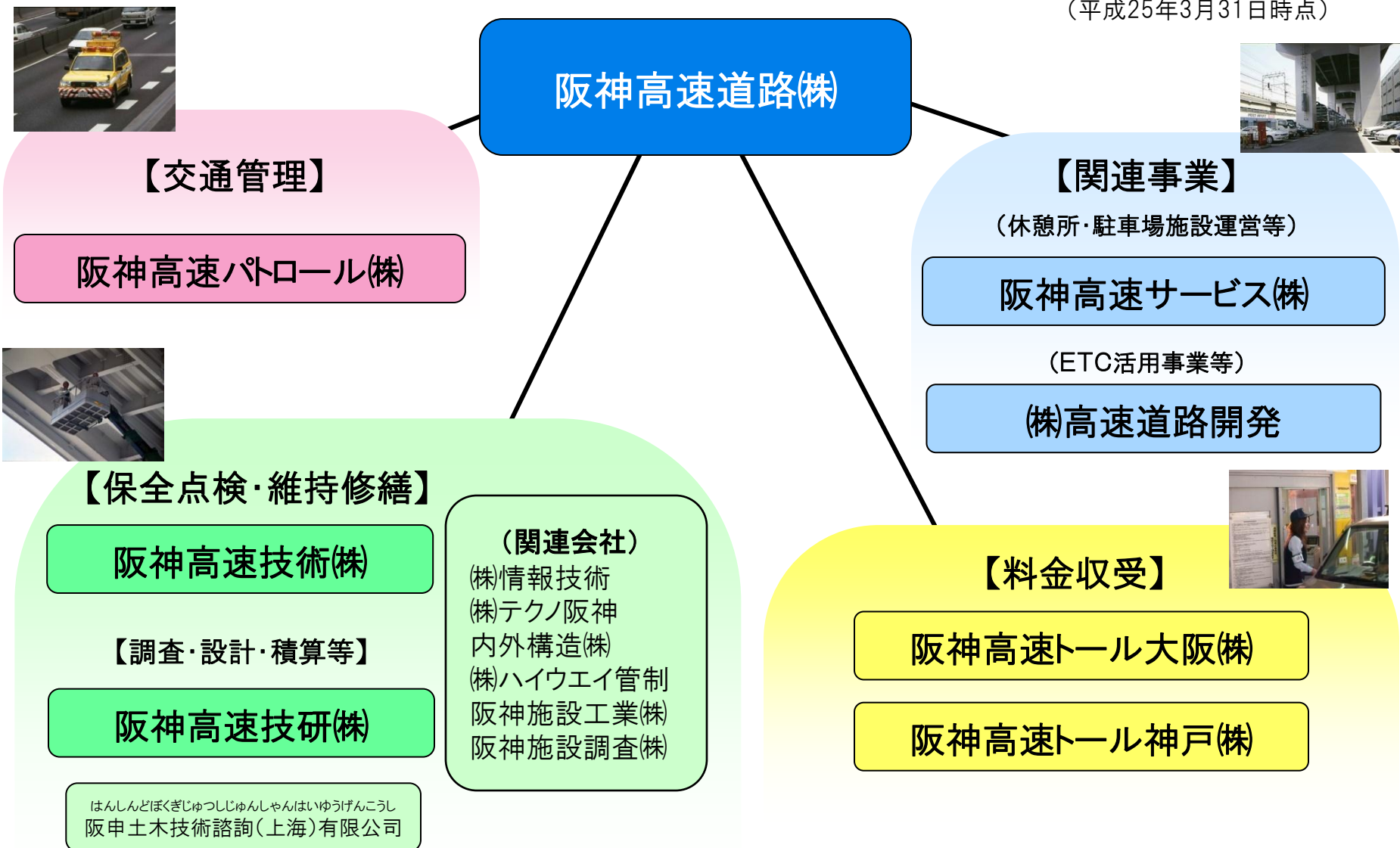
なお、見通し額は国土交通大臣から認可を受けた平成25年度事業計画に基づいています。

(注)1 高速道路事業における損失は、緊急修繕の一部について、高速道路事業に係る利益剰余金の活用を前提に、機構への債務の引渡しを行わないで機構に帰属する道路資産を形成する事業を実施することによるものです。
 (道路資産完成原価と道路資産完成高の差が31億円発生)

(注)2 平成26年3月期の業績見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。

グループ経営体制

(平成25年3月31日時点)



主なトピックス

1. 道路構造物の老朽化対策

- * トンネル天井板等の緊急安全点検を実施しました。また、平成24年度補正予算(緊急経済対策)の一環として位置付けられた緊急修繕事業を実施するなど、更なる安全性向上を図ります。
- * 長期的な視点での維持管理のあり方について「長期維持管理及び更新に関する技術検討委員会」を設置し、技術的な検討を進めました。平成25年4月に委員会から提出された提言を踏まえ、「長期維持管理方針(仮)」を策定する等の対応を進めます。

○トンネル緊急安全点検

- ・トンネル天井板や付属物の緊急安全点検を実施したところ、通行車両の安全に支障を及ぼすような事象はありませんでした。
(一部不良箇所を発見し、ただちに補修を完了いたしました。)
- ・今後、国の委員会や当社の社内検討会での検討を踏まえ、トンネル内付属物等の点検手法や要領の見直し等、更なる安全性向上を図ります。



トンネル吊り材上部定着部付近の点検状況

○緊急修繕事業

- ・主な実施内容
 - ①コンクリート片・付属物の落下等防止(トンネル覆工コンクリート補強 等)
 - ②構造物の疲労・劣化対策(鋼床版のき裂損傷対策 等)
 - ③災害等への対応強化(受電設備の非常時電力供給機能の強化 等)
- ・今後、塗装塗替時の塗膜除去などの新技術も活用し、効率的に進めます。

○長期維持管理及び更新に関する技術検討委員会

- ・目的: 阪神高速道路を健全な状態で管理していくための長期的な視点での維持管理のあり方について、技術的な検討を行うことを目的に昨年11月に設置。
- ・検討経緯: 阪神高速における検討構造物の抽出や劣化予測、大規模更新・大規模修繕の基本的な考え方等について議論され、本年4月の第5回委員会にて提言とりまとめ。



渡邊委員長より山澤社長へ提言提出

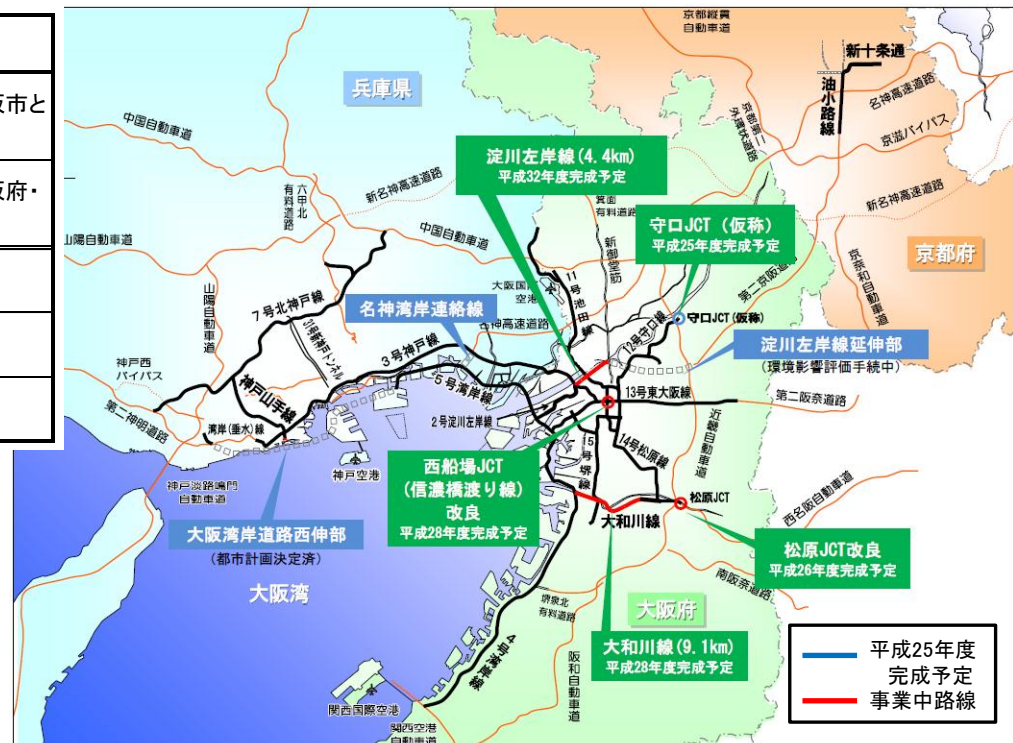
主なトピックス

2. ミッシングリンク解消に向けたネットワーク整備等

- * 平成24年10月1日に新神戸トンネル(8.5km)が移管され、阪神高速道路ネットワークに組み入れられました。
- * 平成25年3月21日に大和川線(三宅西～三宅中:0.6km)が、平成25年5月25日に淀川左岸線(島屋～海老江ジャンクション:4.3km)がそれぞれ開通しました。
- * 平成25年度末完成予定の守口ジャンクション(仮称)をはじめ、大和川線(三宝～三宅西:9.1km)などの整備を進めています。

○事業中路線等

路線名等	区間等	総延長(km)	完成予定	工事予算(億円)	備考
淀川左岸線	海老江JCT～豊崎	4.4	H32年度末	91	うち4.3kmは大阪市と合併施行
大和川線	三宝～三宅西	9.1	H28年度末	2,704	うち4.1kmは大阪府・堺市と合併施行
守口JCT(仮称)	—	—	H25年度末	92	
松原JCT	—	—	H26年度末	79	
西船場JCT(信濃橋渡り線)	—	—	H28年度末	135	



ネットワークに組み入れた
新神戸トンネル



新たに開通した淀川左岸線

主なトピックス

3. 経営改善計画の実施

- * 平成24年3月に策定しました「阪神高速道路株式会社経営改善計画」に基づき、管理費10億円のコスト縮減を図るとともに、その成果を活用し、各種キャンペーン、PAの美装化等お客さまサービスの向上を図りました。
- * 平成25年度も引き続き「安全・安心」の確保に必要な管理水準を確保しつつコスト縮減を図るとともに、その成果を活用したキャンペーンの実施などによりお客さまサービスの向上を図ります。

《平成24年度の取り組み内容》

○グループ経営の一層の効率化などにより、計画管理費約10億円/年縮減

- ①維持修繕等の業務に係る子会社への発注費の見直し
 - (ア)きめ細やかな管理水準の設定によるメリハリの効いた管理
 - (イ)性能規定型発注の導入
 - (ウ)子会社からの外注費の見直し
 - (エ)間接経費の見直し
- ②人件費・一般経費の縮減



料金収受業務の効率化
(自動料金収受機の導入)

○経営改善によるコスト縮減の成果(約10億円/年)を活用したお客さまサービスの向上

休日お出かけ応援キャンペーン、ETC車載器支援キャンペーン、PAの美装化 等



休日お出かけ応援キャンペーン

主なトピックス

4. 当社の技術・人材を活用した新たなチャレンジ

- * 平成24年6月に第二阪奈有料道路の奈良県域(約9.6km)、平成25年4月に大阪府域(約3.8km)の道路マネジメント事業を新たに受託しました。
- * 国際コンサルティング事業では、平成25年2月にケニア国道公社から業務を受注しました。

○道路マネジメント事業

- ・第二阪奈有料道路(約13.4km)
 - 【奈良県道路公社:平成24年6月～・約7,000万円(平成24年度)】
※阪神高速技術(株)・村本道路(株)・阪神高速道路(株)の共同企業体として受注
 - 【大阪府道路公社:平成25年4月～・約3,500万円(平成25年度)】
- ・大阪港咲洲トンネル(約2.2km)
 - 【大阪市港湾局:平成21年度～・約4.7億円(平成24年度)】
- ・夢咲トンネル(約2.1km)
 - 【国土交通省近畿地方整備局:平成21年度～・約2.0億円(平成24年度)】



第二阪奈有料道路

○土地利活用事業

- ・不動産賃貸、駐車場一時使用賃貸等を実施
- ・新千里社宅跡地の有効活用として進めてきた「新千里西町プロジェクト(賃貸住宅事業)」について、平成25年4月より工事着手



「新千里西町プロジェクト」外観パース

○国際コンサルティング事業

- ・道路建設にかかる詳細設計、施工監理等コンサルティング全般
 - 【ケニア国道公社:平成25年2月～ 96ヶ月間・約27億円】
※(株)片平エンジニアリング・インターナショナル・(株)オリエンタルコンサルタンツとの共同企業体として受注
阪神分約1.8億円



ケニア道路事情

◆本資料には将来の予測や見通しに関する記述が含まれておりますが、こうした記述は将来の業績等を保証するものではありません。将来の業績等は経営環境の変化などにより、目標と異なる可能性があることにご留意下さい。

【お問い合わせ】



阪神高速道路株式会社 経理部財務課

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号

TEL: 06-6252-8121(代)

FAX: 06-6251-6930

URL: <http://www.hanshin-exp.co.jp>